

さばう 砂防工事が進む以前の



下流地域



(昭和 22 年 (1947) 撮影の航空写真を使用)

げんざい 現在の下流地域



うしぶせがわ ちしつ
牛伏川の上流の山地は地質がもろいため、くずれやすく、大雨のたびに
どしや おしき ひかい あた
土砂が押し出され、下流地域におおきな被害を与えました。

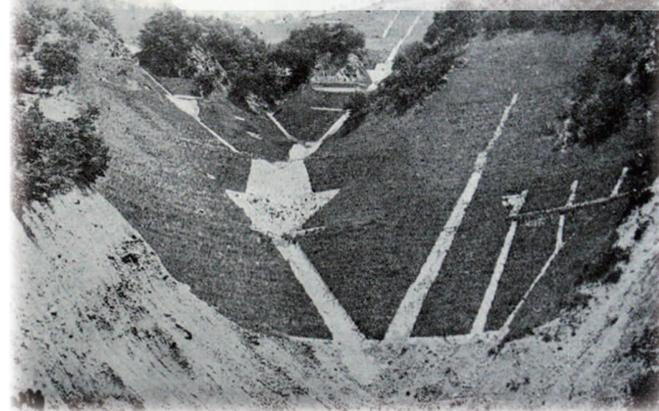
さらにその土砂は、下流の信濃川や新潟港へも影響をあたえたことが、
ちようさ してき
当時の調査で指摘されるようになりました。

さばう | 砂防工事をする前 (泥沢 + 日影沢)



ひかげざわ | 工事の後 (日影沢)

どしや
土砂の流出をおさえるため、明治 18 年 (1885) より
ないむしやう さぼう
内務省による砂防工事が開始され、明治 31 年 (1898)
からは、長野県が牛伏川の砂防工事を引き継ぎました。



牛伏川砂防施設保全活用連絡協議会事務局

松本市内田地区地域づくりセンター

TEL 0263-58-2494

長野県松本建設事務所整備課

TEL 0263-40-1967



重要文化財

うしぶせがわ かいだんこう 牛伏川階段工

重要文化財とは・・・

国が指定した、歴史上、芸術上の価値のある文化財です。
うしぶせがわかいだんこう
牛伏川階段工は、平成 24 年 (2012) に砂防施設として全国で 2 件目と
なる重要文化財に指定されました。

また、明治時代、最初につくられた内務省堰堤4基は、令和3年 (2021) に
登録有形文化財に登録されました。



自然にとけこんだ 日本の伝統技術

かいだんこう
階段工は、長さ約 141m、落差およそ 20 数mの間に、高さがことなる
き とこがため はりいしいう こうせい とこがため
19 基の床固とその間の張石水路で構成されています。床固間にも 10cm
ていと だん
程度の小段があり、水のいきおいをやわらげる構造となっています。